

RCC FORUM

No. 41



(こなか・ようたろう)

1934年神戸市生れ。東京大学文学部仏文科卒。

NHKテレビディレクターを経てフリーとなり、歴史、市民運動、教育問題などを題材にノンフィクションを発表。1965年、小田実らとベ平連結成。1983～84年フルブライト交換教授として、ニューヨーク市立大学ブルックリン校などで講義。

中部大学人文学部コミュニケーション学科教授を経て、星槎大学教授となる。日本ペンクラブ理事。元アジアキリスト教協議会議長。

著書は『青春の夢－風葉と喬太郎』『ラメール母』『翔べよ、源内』（平原社）他多数。

小田実と 歩いた世界

小 中 陽太郎 氏

(作家・星槎大学教授)

●日時:2009年10月5日(月)

第4時限(15:10～16:40)

●会場:関西学院大学

関西学院会館ベーツチャペル

—どなたでも聴講できます—

講演内容

小中陽太郎さんは近著「市民たちの青春－小田実と歩いた世界」の中で、小田実の死生観に触れて、次のように述べています。「小田は、最後まで唯物主義者だった。ギリシャの中でもプラトンやオルフェウスの信奉者ではなく、民主主義者デモクリトスの弟子だった。それでもぼくは、永遠や神があるのではと思う。いるかいないかわからない。それならいるほうに賭けよう。(中略)ぼくがキリスト者になったのは死の意味だった。小田は、大阪大空襲のようにベトナムの民衆の死も「難死」だったというだろう。だがベトナムの死者が無駄であったことはない。彼らの死が歴史を作ったのだから。ぼくがキリスト者になったのはパウロのガラテヤ書のここだった。「もし人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。」(ガラテヤ2:21)人の死は無ではない。キリストの死も難死だが、無ではない。小田の死も無ではない。」世界をめぐる、「何でもみてやろう」で時代の寵児になった小田実と歩んだ日々を語ります。